

平成 25 年 4 月 30 日

ジェットロ・クアラルンプール（マレーシア）に派遣中の三重県職員からの現地レポート

ジェットロ・クアラルンプール（KL）事務所

間下 悟志（2013年4月より赴任）

（三重県雇用経済部ものづくり推進課より派遣）

1. 4月に行った主な業務

①マレーシアに進出済みの日系企業について

2012年5月にジェットロ KL が把握している企業数は1,409社（製造業729社、非製造業680社）ですが、新規の進出の相談はサービス産業系（教育コンサル、外食産業、小売）が圧倒的に多いです。物流、製造業などは既に進出した企業の相談が入っています。

②ハラル（イスラム教徒用の）食品見本市を視察（KL コンベンションセンター）

将来的には（日本にハラル認証の食品企業が増えてきた場合）出展支援を考えるとと思われるハラル食品の展示会（MIHAS：第10回マレーシア国際ハラル見本市）の見学及び出展企業へのヒアリングを行いました。イスラム圏以外では、フランス・ベルギーなどのパビリオンが大きく、例えば、アルコール度数0%のワインやダイエット食品などが展示されていました。

ただし、昨年までは、味の素、キューピー、ヤクルトといった日本の大手企業も出展していたそうなのですが、今年はブースがありませんでした。

ハラルについては、イスラム圏の観光客を受け入れるうえでも考えていくべきものがあり、北海道ルスツリゾートのような取組もあります。

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/130407/biz13040707000000-n1.htm>

ただ、暑い東南アジアや中近東では寒い地域に行けることがステータスであり、日本でも降雪地域が旅行先として人気ようです。

③食品関係展示会の準備

当地で行われる食品関係の国際展示会（FHM2013）に今年度ジャパン・パビリオンが初出展となります。この準備のため、最新のマレーシアへの輸入許可などについて調査をしています。

Ministry of Health(MOH：保健省)、Ministry of Agriculture (MOA：農業省)などの担当者を訪問し、肉類や加工食品の輸入許可について、見解を確認したりもしました。

2. マレーシアについて

概況を記載させていただきます。

① 首都：クアラルンプール（Kuala Lumpur: KL と略すことが多いです。）

半島（西マレーシア）11州、東マレーシア2州の13の州と3つの連邦直轄地（首都、ラブアン島およびプトラジャヤ）からなります。

- ② 気候：熱帯性気候（年間を通じ25～32℃）。午後にスコールと呼ばれる短めの激しい雨が降ることが多いです。朝夕は割と涼しく過ごしやすいです。オフィス・ホテルなどは逆に冷房が効きすぎて寒いことが多いです。電力料金の高いフィリピンは逆に屋内でもかなり暑いそうです。
- ③ 面積：約33万平方キロ（日本の面積の約90%）
- ④ 人口2933万人（2012年マレーシア統計局） 約80パーセントが半島部に居住
首都クアラルンプールの人口は約170万人
- ⑤ 民族：マレー系を中心とするブミプトラ（土地の子の意）62%、華人系22%、インド系7%、その他9%
- ⑥ 国民性：おだやか、陽気で、道徳心に富んでおり、治安も良いです（ひったくりや交通事故は多いようです）。それぞれの民族が自分の文化・宗教を守りつつも、互いに他の民族の文化・宗教を認め合うことで共存が成り立っています（昔より増えているとは言え、他の民族と接する機会のまだまだ少ない日本とは根本的に違う環境だと感じます）。また、東南アジア全般に比べると、かなり親日的です。
- ⑦ 言語：マレー語（国語）、英語、中国語、タミール語
- ⑧ 宗教：イスラム教（国教）、仏教、儒教、ヒンドゥー教、キリスト教、原住民信仰
- ⑨ 天然資源：原油、パーム油、天然ガス、木材、天然ゴム、その他
国の収入の40%以上が原油関連です。
- ⑩ 通貨：リンギ（Ringgit） ここ数年1リンギ25～27円くらいであったのが、現在、32円を超える水準であり、両替所に行くと、「日本はどうしたんだ」と言われます。日本メーカーが2～3割安くなってうれしいとの声も聞きます。せっかくなので、輸出主体の企業の方にはしっかり稼いでいただけるようにしたいです。

3. その他（ベトナムとの比較）

3月までジェトロ東京本部機械・環境産業部機械・環境産業企画課にて同僚だった方が27日夜よりクアラルンプールにいらしています。現在、ベトナムのホーチミン事務所に勤務中ですが、まずは道路や電力などのインフラが整っていることに驚かされていました。ホーチミンでは停電はしょっちゅうで、道路もでこぼこが多く、車はすぐ痛んでしまうので、バイクを持つ人が多いとのことでした（人口約8,800万人に対し、バイクの台数3,700万台。2011年の販売台数350万台で世界4位）。マレーシアはバイクの年間販売台数は2010年で50万台ほどです。

また、マレーシアはモノレールのような公共交通網が都市部に整備されつつありますが、まだそういうものに関してはこれからというところのようです。

言語に関しても英語はほぼ通じず、タクシーに乗るのもかなり難しいそうです（昨年出張で行ったインドネシアを思い出しました）。

また、工業団地が見たいということでしたので、日曜日にタクシーを借り切って、日系企業の多いシャー・アラム市と、取扱貨物量が国内一のクラン港に行ってきました。

マレーシアはタイ・ベトナム・インドネシアに見られるような日系商社などがインフラを整えた工業団地（例えば、排水処理や総務事務などを一括で行っていたりします）はなく、それぞれの企業が独自に進出しています。

シャー・アラム市では、1976年3月設立のパナソニック・マレーシアを始め、トヨタ、(マレーシアの国産自動車企業) プロトン、シャープなどの工場について、外周を眺めるような形で回ってきました。

ベトナムは製造業がホーチミンではなく、首都ハノイ周辺に集積しており、ホーチミンはサービス産業系の盛んな商業都市ということで、進出の相談もほぼすべてサービス産業系のようなようです。